慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	マージェリー・K・ジェームズ 第十四世紀の仏英間における葡萄酒貿易の変遷
Sub Title	
Author	渡邊, 国広
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1953
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.46, No.5 (1953. 5) ,p.403(89)- 405(91)
JaLC DOI	10.14991/001.19530501-0089
Abstract	
Notes	論文紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19530501-0089

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

應性は確かに大きい。企業家と貯蓄家との自律性は最大限の國民經濟生産力に適應する。所が、ここでも價格が問題になる。卽ち價格は單に人々の生活能力に對してでなく却て最高生産力を達成させるための、指導的機能を果たしているのである。このことは、共産主義者に對する市場法則の認容と同じことにある。我々にとつて問題とすることは、信仰に近い希望ではなく客觀的な必然性でなければならない。

然し必然性についてコッホはその説明のみで結論をさけている。卽ち、マルクスの豫測は多くのことを論證した。ロードベルッスやワグナの發展段階豫想も、發展法則が幻影ではないことを明らかにした。而もなお我々は意志の自由なる領域をもつている。どこ迄をしていかに我々は自由を使用すべきであるか？　と。

三

次にバーリナの論文であるが、これは二六人のソ連勞働者とのインターヴューをまとめたものである。

ソ連勞働者の incentive としてプレミア（業務遂行の動機としての貨幣によるボーナス）が重大な要素をなしている。そのプレミアは次の三つの場合に支拂われる。①生産計畫を成功的に完遂した場合　②特殊な仕事（例えば生産費節減・燃料節約・賃金節約など）をした場合　③前二者以外の一般的仕事の遂行がこれである。所がこの刺戟方法が國家の利益に反することがある。例えば、ある企業の生産計畫の超過遂行は、實際能力以下の計畫を受けとるようにすればよいことになるからである。そこでソ連では能率刺戟策として利潤はプレミアの原因としてのみ重要なのであつて第二次的役割しかもたない。

次にソ連でしばしば口頭にのせる言葉として "chotoby zhitspokoino"（靜かなる生活）という語を忘れてはならない。この希望は unlawful な行動を望む氣持から發している。彼らは物品をよく交換するが、その時價格の高低は問題でなくその品物に興味をもつからである。これは政府が法律の穴を强制によつて補なう所からくるのであろう。ともかく、平和な生活という希望も亦人々の刺戟となるのである。つまり彼らは、法の中に安全に住んでいたのであるが又、不法をしてみたくもあるのである。

以上、プレミア・利潤・靜かなる生活の三つが、ソ連勞働者をして目標達成に刺戟する要素と考えられる。ここで、プレミアの率を表示しておこう。

基本金に對するプレミアの割合　（1948年）

職種別	計畫に對する遂行率に對して	計畫超過遂行の各1%に對して
高級經營者（重役・高級技術者）	30%迄	4%迄
中級經營者（各部門の長）	25%迄	3%迄
下級經營者（係長級）	20%迄	3%迄

所でこのような計畫遂行に對する報償制がうまくいつているかというと疑問である。ソ連には "Blat" という飜譯できない言葉が流行している。「ブラートはスターリンより高級なり」とか、「お前は ZIS をもつべきだ」というのである。ZIS とは Znakomstvo i Sviazy の省略で、知人・コネクションのことである。ブラートはごまかしという意味である。卽ち、計畫遂行の成否はブラートのあるかないかでうまく行くということなのである。これからみても疑問が存するわけである。そしてかかる逃げ道は、今迄成功していた企業が一度失敗するや殆んど無視されるということと、黨の支配下にある企業が高い生産目標を掲げてチャレンヂしてきた時、それを拒否できないというようなことによつて更に激しくなつて行くであろう。

以上がバーリナの論旨である。

× × ×

以上二つの論旨から、我々は自由という問題を考える時、資本主義の自由と、社會主義のそれとを單純に比較することの無謀、そして資本主義社會において主張せられている自由を以て自由の本來の姿であるとすることの無根據、更に自由は社會制度にいかに關係づけられるかという意味において問題になるということを類推することができる。

論文紹介

『第十四世紀の佛英間における葡萄酒貿易の變遷』

マージェリー・K・ジェームズ

Margery K. James, "The Fluctuations of the Anglo-Gascon Wine Trade during the Fourteenth Century", Economic History Review, Second Series, Vol. IV, No. 2, 1951, pp. 170—196.

中世イングランドの貿易においてガスコニー州の輸出葡萄酒が占めた重要性に關しては既に指摘されているところである。然し如何なる量の葡萄酒が實際に取引されていたかについては固より詳細な研究がない。幸い第十四世紀に關する限り關係資料が豐富に殘存している。以下はこれ等の資料を利用して得た第十四世紀イングランドにおけるガスコニー産葡萄酒の輸入概況である。

中世のイングランドはガスコニー産葡萄酒の主要市場であつた。一三〇〇年以來年々ガスコニー州は輸出葡萄酒總量の約五分の一に當る二萬噸をイングランドにおける需要に向けていた。然し一三一〇年にはガスコニー州の輸出葡萄酒總量が一擧

に五萬噸に減じ、イングランドの各地に入港する葡萄酒船の數も一三〇〇年の一五一隻から一三二一年には一二八隻に減少した。品不足は勢い葡萄酒の價格を釣上げ、從前は一ガロンに付き四片を以て一般に賣買されていたものが一三一一年には五片の小賣價格を持つようになつた。

一三一三年には一時回復を示した葡萄酒貿易がガスコニー州における悪疫の流行に依つて再度不振に陷つた。即ち一三一五年にはイングランドの各地に僅か一二九隻の葡萄酒船が入港しているに過ぎない。勿論この數は往時の最盛期に遠く及ばない數であり、このため價格は高騰し、一ガロンに付き三片という小賣價格に對する制限にも拘わらず、例えば一三一六年には六片という高値を示した程であつた。

尤も一三二七年にはガスコニー州における葡萄酒輸出が活況を取戻した。イングランドの各地にガスコニー州から入港する葡萄酒船の數は增加し、一三一七年には既に二三〇隻を上廻つていた。又葡萄酒輸入量が例えばロンドン港のみについて見ても一三一八年には往時の最盛期における二倍の約六千噸に增加し、一三二一年には八千噸を越える盛況であつた。從つて價格も各地において大幅に下落し、一三二〇年には小賣價格を上等もの一ガロンに付き三片、下等もの二片と規定することが可能な程であつた。然し適正利潤の確保を願う葡萄酒商はかかる事態を憂い、一ガロンに付き四片の小賣價格を固執して譲ろうとしなかつた。

然し一三二四年にはイングランドに對するガスコニー產葡萄酒の積出が激減した。原因は兩國間における戰爭の勃發であつた。このため一三二五年のイングランドの輸入葡萄酒總量は從前の半分以下に減じ、三千五百噸を僅かに上廻つていたに過ぎない。更に一三一六年にはガスコニー州に對する葡萄酒船の航行が禁止され、貿易の衰退は愈々烈しく、戰爭に依る影響は意外に大であつた。

戰亂の終結と共にイングランドはガスコニー產葡萄酒の輸入を再開し、百年戰爭勃發の一三三七年迄の約十年間を通じてイングランドは再びガスコニー產葡萄酒の主要市場となつた。尤も葡萄酒商を特別に保護したことがこの期における繁榮の重大な理由の一つであつたことはいう迄もない。

百年戰爭の勃發はガスコニー州の葡萄酒輸出に對して大打擊を與えた。ガスコニー州は逸早く戰場化した。このためガスコニー產葡萄酒の輸出總量は急速に減少し、戰鬪が一時停止されて貿易が小康を得た一三四〇年から一三四五年迄の時期を經て一三四八年には輸出總量僅かに六千噸という未曾有の減少を示した程であつた。

戰火の擴大と共に海上における危險も亦增大した。このため當局は葡萄酒の輸送に從事する商船の單獨航行を禁止し、船團の編成を命じて護衛を引受け、葡萄酒輸送の萬全を期した。然し護送の實施に依つて運賃は意外に嵩み、輸入葡萄酒の小賣價格に影響する程であつた。しかも一旦イングランドの港都に到着した葡萄酒が內陸の各地に搬入される場合、沿岸の危險を避けて陸路に依つたため運賃は益々嵩み、小賣價格は愈々上騰して戰前の優に二倍に達する驚異的なものとなつた。

小賣價格のかかる高騰に對しては勿論不平があつた。例えば一三六三年に下院はガスコニー產葡萄酒の現地における買入價格の明示を要求し、一部の商人に依る不當な利益の搾取を防止しようとした。又一三六四年にはガスコニー州において葡萄酒を買付け得る商人の數を制限し、自由競爭を排除することに依つて價格の高騰を阻止することが一部において企圖されていた。然し自由な競爭を忌避したかかる立案は却つて價格を釣上げ、いづれも間もなく撤回されるところとなつた。

一三六九年に戰鬪が再開された。爾後イングランドがガスコニー州から輸送し得た葡萄酒の總量は年々六千噸に滿たなかつた。價格も亦高騰し、一三七三年一月にロンドンにおいては一ガロンに付八片と規定されたが、同年五月には早くも十片を以て一般に賣買されているという急變の仕方であつた。

一三八三年に再度戰鬪が休止され、ガスコニー州の葡萄酒輸出は急速に增加した。即ち一三八三年には一萬七千噸の葡萄酒がイングランドに向け輸出されていた。又一三八九年には輸出が更に伸張し、イングランドの輸入葡萄酒總量は殆んど戰前に復歸したかの感があつたが、小賣價格において一ガロンに付き戰前の五割高の六片という高値を示し、眞の回復のためには戰爭の完全な終結を待たなければならなかつたというのが實際のところであろう。

以上が第十四世紀のイングランドに對するガスコニー產葡萄酒の輸出概況であるが、一般に、百年戰爭の勃發前は概して好況であり、勃發後は、急速な回復を示した停戰時を除けば、長く不況を免かれなかつたということが出來よう。

（渡邊國廣）

ステフェン・スカルヴァイト『リシュリューの國家觀』

Stephen Skalweit, "Richelieus Staatsidee", Geschichte in Wissenschaft und Untersicht, 2 Jahrgang, Heft 12, Dezember 1951. S. 719—730.

アンリ四世の死後、子のルイ十三世が幼弱を以て卽位した。然し攝政として政治の實權を握つた母后マリヤ・デ・メヂチが、イタリー人コンチニを寵遇して施策を誤つたため、政爭は再燃し、收拾が困難であつた。親政時代に入つて後も、國王に政治的手腕を缺いたため、世論の統一は至難なことに屬し、混沌として容易に落着する樣子もなかつた程であつた。

特に王權か敎權かを繞つて輿論は烈しく對立した。敎權の優位を主張したのは主としてカトリック敎徒であつた。しかも戰鬪的な一部のカトリック敎徒は「熱心なカトリック敎徒黨」の